

経済水道委員会

説明資料

特別史跡名古屋城跡天守閣整備事業に係る
基本計画（案）の進捗状況について

平成30年5月15日
観光文化交流局

目

次

頁

1	名古屋城天守閣整備事業基本計画（案）の趣旨……………	1
2	基本計画（案）の検討状況……………	1
3	基本計画（案）の内容……………	2
4	復元整備基本構想に対する復元検討委員会の主な意見……………	4
5	現状変更許可取得までの今後の予定と課題……………	4

1 名古屋城天守閣整備事業基本計画（案）の趣旨

- ・名古屋城天守閣整備事業における基本的な考え方を整理したもの
- ・現状変更許可申請を行うにあたり必要となる資料

2 基本計画（案）の検討状況

時 期	内 容
平成29年 11月16日	・第6回天守閣部会において、復元整備基本構想の内容について検討
12月20日	・第7回天守閣部会において、主架構木材及び大天守の屋根仕上げについて検討
12月25日	・所管事務調査において、特別史跡名古屋城跡天守閣整備事業に係る基本計画（案）の進捗状況について報告
12月26日	・文化庁復元検討委員会において、特別史跡名古屋城跡天守閣整備事業に係る基本計画（案）のうち、名古屋城天守閣の復元整備基本構想が報告される
平成30年 1月30日	・第25回石垣部会において、天守台石垣周辺調査について検討
2月14日	・第8回天守閣部会において、継手及び仕口について検討
3月 6日	・第26回石垣部会において、天守台石垣周辺調査について検討
3月26日	・文化庁復元検討委員会において、特別史跡名古屋城跡天守閣整備事業に係る基本計画（案）のうち、名古屋城天守閣の復元整備基本構想が報告される
3月28日	・第9回天守閣部会において、基本計画の策定状況について報告
5月 9日	・第10回天守閣部会において、木造復元天守の昇降等に関する検討について報告

注 復元検討委員会の正式名称は「史跡等における歴史的建造物の復元の取扱いに関する専門委員会」

3 基本計画（案）の内容

(1) 概要編

区分	項目	内容
復元整備 基本構想	特別史跡名 古屋城跡の 保存活用	・ 特別史跡名古屋城跡保存活用計画に基づく、特別史跡名古屋城跡の保存、活用、整備、調査研究及び運営体制についての基本方針
	歴史的変遷	・ 近世から現代に至るまでの歴史的変遷
	現天守閣の 価値	・ 市民の機運の高まりによる再建、豊富な史資料に基づく外観復元、博物館としての機能と活用、SRC造による外観復元と博物館機能の融合という観点からの現天守閣の価値の評価
	天守復元の 意義	・ 木造復元と耐震改修の利点と課題を比較することによる、木造復元の優位性の整理
	復元時代の 設定の概要	・ 天守台の変遷や、遺された史資料から真実性の高い実証的復元ができる宝暦大修理後を復元時代として設定
	活用の考え方	・ 木造復元された天守閣が、名古屋城への親しみや愛着を持つ市民の心の拠り所となり、さらに世界に誇れる日本一の近世城郭となるための活用方針
復元詳細 の検討	新機能としての付加検討	・ 静的解析による構造計画 ・ 避難コアや破風からの排煙を利用した防災避難計画
復元整備 と利活用	仮設計画	・ 素屋根、構台に関する仮設計画 ・ 現天守閣解体に伴う天守台石垣への影響の検証
	活用の考え方	・ 観覧動線計画 ・ 観覧、サービス、管理、交流体験、倉庫、機械室などのゾーニング計画

(2) 資料編

区分	項目	内容
復元根拠としての採用資料	天守台石垣の検証	・古写真などの史資料に基づく、天守台石垣の変遷の検証
	昭和実測図及び野帳	・昭和実測図、野帳の検証
	古写真史料	・ガラス乾板写真などの古写真史料の検証
	絵図史料	・名古屋城御天守地割之図などの絵図史料の検証
	文献史料	・金城温古録などの文献史料の検証
	摺本、拓本	・金具の拓本などの検証
	現存する遺物	・現存する金具や瓦などの検証
復元原案の考証	各部の復元検討	・史資料による間取り、壁の仕様、屋根の仕様、鋳金物の仕様、橋台の仕様、金鯱の仕様に関する検証
		・木材の仕様の検証 (通し柱122本、管柱756本、梁1,182本 主架構木材合計2,323本、 柱の材種国産檜、梁の材種国産松など)

(3) 図面編

区分	項目	内容
透視図	パース	・木造復元天守閣の外観パース、内観パース
建築計画	現天守閣図	・現天守閣の平面図、立面図、断面図
	復元原案図	・焼失前の天守の平面図、立面図、断面図
	仮設計画図	・素屋根の仮設計画図
	関係法規チェックリスト	・関係法規の要否に関するチェックリスト
設備計画	設備計画概要	・受変電幹線、電灯、非常用照明、誘導灯、電話情報、放送、誘導支援、自動火災報知、防犯、避雷、消火に関する設備図

4 復元整備基本構想に対する復元検討委員会の主な意見

- ・戦後都市文化の象徴であるRC（SRC）造天守を解体するにはなお議論を尽くす必要がある。史資料の豊富さということのみで、名古屋城天守を木造とする考えが正当化できるかどうか検討を要する
- ・戦前における城郭建築についての研究と耐火構造の必要性という中で、RC（SRC）造天守が建設されたわけであるが、前者についての追跡が不十分ではないか
- ・建築基準法の変遷についての調査がさらに必要である。昭和34年改正が、国宝保存法に指定され、戦災によって焼失したものの再建を適用除外としていると解釈できるか否か、検討が必要である

5 現状変更許可取得までの今後の予定と課題

(1) 今後の予定

時 期	内 容
平成30年 5月末	・木造天守閣の昇降に関する付加設備の方針決定
7月	・基本計画の策定 ・石垣調査取りまとめ ・文化庁復元検討委員会（想定）
9月	・現状変更許可申請（想定）
10月	・文化審議会（想定）

(2) 7月の基本計画策定までの課題

- ・天守木造復元の意義についての説明
- ・基本計画に必要な石垣調査の取りまとめ
- ・穴蔵石垣の保全と観覧者の安全性を考慮した基礎構造の検討